

第 3875 図

うらぼし科



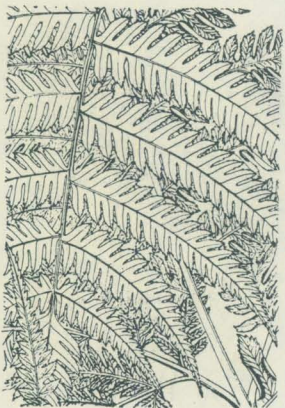
ゆのみねしだ

*Histiopteris incisa* J. Smith

熱帯に広く分布する大形の常緑羊歯草本で、向陽の荒地に大群落を作る。小笠原及び屋久島に産するが、曾って紀伊那智山の湯の峰に産したので和名が出来た。根茎は密に鱗片があって横走する。葉柄は直立して散生し、栗褐色で平滑、光沢があり径1cmに達する柱状で長い。葉面は卵形、紙質を帯びた草質、淡碧緑色で、殊に裏は白味が強い。2回羽状複葉で羽片は互いに距たり、対生、小羽片は円頭の大鋸歯を有し、最下小羽片は羽軸に接合して托葉状、葉縁は裏へめくられてその間に囊堆がある。

第 3876 図

うらぼし科



なちしだ

*Pteris Wallichiana* Agardh

房総半島以西の暖地に割合に多い大形羊歯草本。一見常緑にみえるが冬は葉が枯れる。地上に露出して太い根茎が匍い、数葉が接して直立し、高さ1m内外に達し、栗褐色の太い葉柄の上部に鳥趾状をなして分岐した大きな5小葉が傘状に五角形を作って水平に展開し、鮮緑色で水々しい美しさがある。小葉は更に2回羽状に深裂し、上部に頂羽片がある。裂片は長楕円形で心持弓形をし、彎入の両側では縁が裏へめくられて汚白黄色の縁どりをした中に囊堆ができる。和名は那智ンダで最初那智山で注意されたのに依る。熱帯アジアに広い分布がある。

第 3877 図

うらぼし科



ほらいしだ

*Adiantum capillus-veneris* L.

汎世界的に暖地に分布する常緑羊歯草本。関東以南の各地の湿った崖に屢々みるが、真の自生ではないものが多いようである。根茎は横たわって短形、上面から葉が並んで出る。葉は長さ20cm内外、斜めに立つ。葉柄は紫褐色で針金様、光沢がありもろい。葉面は長卵形〜広披針形で下半部では2回羽状複葉、羽軸は糸状で細く、羽片はゆがんだ扇状の横向きの楕円形、前辺は少数の深い裂目があり、明るい黄緑色、薄い草質で乾くと膜質、裏表区別がない。裂片の先端反転した中に囊堆を作る。和名は蓬萊羊歯で台湾に自生が多かったので雅名高砂から連関して用いたのである。

はいこもちしだ

一名じょうれんしだ

*Woodwardia unigemmata* Nakai

ヒマラヤから東南アジアに広く分布する大形の常緑羊歯。日本では熊本県及び伊豆半島にみる。葉は崖に垂れて生じ、長さ1.5m内外、コモチンダに酷似、しかし葉面は一層長く、葉色は緑色が濃く、質却って薄いが、羽片は広線状長楕円形で基部に近い裂片が屢々中央辺のそれよりも短かいし、上部急にちぢまって頂小片を有し、その下方の中軸上に金褐色毛に包まれたむかご1個を生ずる。これは脱落せず、これが地に着けば新株を得るので和名を生じた。ジョウレンンダは浄簾羊歯で伊豆の同名の滝に由来し、大群落を有する。

第 3878 図

うらぼし科



第 3879 図

いわとらのお

*Asplenium varians* Hook. et Grev.

東北アジアに広く分布する半落葉性の小形羊歯草本で、湿った稍々日陰の岩面や樹皮上にコケに混じて生じている。根茎は至って小形、3-10葉が出て平開す。3-15cm高、葉柄は繊弱で緑色、鱗片は少ない。葉面は長楕円状披針形で2回羽状複葉、草質で質薄く、軟かく、鮮緑色、小羽片は倒卵状楔形で互に接せず、上縁に少数の歯牙があり、夫々へ1脈が流れ込む。この脈上に線形の囊堆を生じるが、苞膜は汚白黄色である。和名は岩虎之尾で、トラノオンダに似て岩面に好んで着生するに因る。

うらぼし科



第 3880 図

いちょうしだ

*Asplenium ruta-muraria* L.

(= *Amesium ruta-muraria* Newm.)

北半球の稍々寒い地方一帯に広く分布する小形常緑羊歯草本。多くは石灰岩地の裂目に着生しており、本州から九州にわたって産するが、量は少ない。根茎は短かい。葉は密生し、4-8cm長、葉柄は細針金状で緑色、基部だけに黒い鱗片がある。葉面は汚黄緑色で革質、しかし柔軟、2回羽状複葉だが小羽片少数で小形、倒卵形広楔脚、上縁には小鋸歯があり、細脈が平行し、それに沿って線形の囊堆がある。熟すると子囊が開出し、葉裏全体が茶色になる。和名は銀杏羊歯で小葉片の形に因る。

うらぼし科

